

介護部



部長
倉橋 健司

訪問型C、名古屋市でも始まります！

一宮市に続き名古屋市でも総合事業の訪問型Cが始まります。令和6年4月に予定されている契約締結まで確定ではありませんが、10月開始予定となっています。

事業の趣旨は「対象者の自宅に専門職が訪問し、運動や生活動作、生活環境等の指導を実施し、心身機能やADL/IADLの改善を目指し、転倒骨折の予防を図ることを目的としています。また、サービス終了後も利用者が主体的・継続的に介護予防に取り組み、できる限り要介護状態とならず、自立した日常生活を営むことができるよう支援します」です。

愛整会としての今後の予定ですが、春頃に訪問型への参加希望者を募ります。希望者の中から派遣する会員を選ぶことになります。その後、希望者を集めて事業の進め方や訪問して行う運動等の指導についての研修会を1～2回開催しようと考えています。

これからも介護部へのご協力をよろしくお願いします。

柔道部



部長
中村 太

会員の皆様方におかれましては、平素より各種柔道大会やその救護活動等、柔道部の活動に対し、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

柔道部の公益活動は、県民の医療、保健、福祉及び健康維持並びに青少年の健全育成に関する事業を行っています。その中でも少年少女柔道大会、少年柔道形競技会、東海少年柔道大会、東海少年柔道形競技会、日整全国少年柔道大会、日整全国少年柔道形競技会の6つは、大きな公益事業です。

少子高齢化が進む現代において就学児童の減少により、柔道人口も年々減少しています。全日本柔道連盟も柔道人口減少問題を解決するため、長期育成指針を立て、幅広い層に理解される明確なコンセプトを開発しようとしています。

日整の柔道に関するアンケート調査においても、日整会員柔道選手の減少化・高齢化により選手が揃わず大会に参加できない都道府県が多く、ここ数年会員の全国大会は中止となっています。本会においても柔道の稽古を継続に行っている会員が年々減少し、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響もあり、令和元年を最後に4年間会員の柔道大会が中止となっています。しかし、令和6年度は会員大会が開催できますように計画していきますので、会員皆様のご理解、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

柔道整復師にとって学術が「剣」とするならば、柔道は「鎧」と私は考えます。これからも柔道の役割や価値を再確認し、会員皆様のご協力の下、柔道の公益事業に携わって行きたいと思います。

学術部



部長

西村 武蔵

社団に入会させていただき15年目ですが、理事という重責を任命され、学術担当となり、微力な私は再勉強させていただく事になりました。

6月14日（水）に初めての支部学術担当者会議において、学術部員2名、学術委員2名、各支部担当者の先生方と今年度の確認したところ、質問や提案、要望などをいただき新年度が始まりました。

7月19日（水）愛整学会リハーサル後、30日（日）の愛整学会はコロナ制限解除後、初の完全対面方式にて開催したところ、予想以上の聴講者の参加があり、活発な質疑応答も交わされました。

10月28日（土）、29日（日）には第56回東海学術大会三重が津アストホールにて開催され、内容に関しても、参加された愛整会員からは、対面方式ならではのワークショップもあり、良い評価もいただきました。

11月5日（日）は愛整会館にて日整主催の匠の技プロジェクトを3名の指導者候補が受講され、愛知県が指名されましたがPIP関節掌側板損傷において模擬の固定処置も適確に対応いたしました。

今後も様々な行事がリアル開催されますので、ご協力をお願いします。

保険部



部長

中野 一弥

日頃は柔道整復療養費取り扱いにご理解ご協力ありがとうございます。

保険部長を拝命し、「あっ」という間に半年が過ぎました。そして、多くの業界問題点や今後の展望、そして保険部長である前に柔道整復師として自分自身の歩むべき道が見えてきました。

「コンプライアンス遵守」という言葉をニュースなどでよく耳にするかと思います。「コンプライアンス遵守」とは法律を守ることが大前提です。柔道整復師業界において考えると業界倫理や社会的良識、社会規範などを守っているかどうかということです。つまり法律で懲罰を課されていない項目であっても、法律の抜け穴をかいくぐるような行為は避けなければなりません。社会的良識を逸脱した行動を取ることで、柔整業界イメージは失墜し、法律を犯していないにも関わらず、社会的制裁を受けることになりかねます。

釈迦に説法ではございますが、柔道整復師の業務範囲は、平成2（1990）年発刊「厚労省健康政策局医事課編著の逐条 解説」には、「柔道整復師の業務は、脱臼 骨折 打撲 捻挫等に対し、その回復を図る施術を業として行うものである」と明記されています。

我々は、柔道整復師法により業務を独占する為、もみほぐしマッサージ、痩身、骨盤矯正、脊椎矯正、姿勢矯正、猫背矯正、頭痛、めまい、不眠、冷え症、しびれ、肩こり、不妊症、等の治療と称した医学的根拠のないエステ行為を柔道整復療養費に申請せず、実費だとしても外傷治療以外を行うことはできません。また、柔道整復師でなくても柔道整復師法第19条で厚生局並びに保健所への届け出を行った接骨院施術室内、及び施術時間内に柔道整復業以外の行為は行えません。

保険者は疑義のある施術所のホームページを閲覧しており、同施術所に集中的に患者照会を行っている傾向もあります。

「昔はこうだった」「今まで通った」「そうやって習った」「他の接骨院もやっている」…では、これからは通用しません。法治国家である以上、柔道整復師法を守ることが我々の義務であり、コンプライアンスを遵守することが施術所近隣の医師や保険者からの信用に繋がります。論より証拠（施術録）、根拠のある外傷治療と柔道整復師療養費支給基準に沿った適正請求を心がけてください。

皆様ご自身のプライドと良心に柔道整復師業界の未来が架かっています。

表紙裏の昭和62年6月14日制定「柔道整復師綱領」をご一読いただけたら幸いです。

IT委員会



委員長

岡田 忠士

日ごろは、愛整ホームページへのご理解とご協力ありがとうございます。適時更新を行っていきますので今後ともよろしくお願いします。

さて、マイクロソフト社のOS Windows11が2021年10月5日にリリースされ、2年が経過しました。Windows10は「2025年10月14日にサービスを終了予定」とされているので、あわててアップデートする必要はないです。

Windows10から11へのアップデートは、マイクロソフト社の設定した条件を満たしていれば可能で、アップデートの表示が出ている先生もあると思います。（スタート→設定→更新とセキュリティ→Windows Updateで確認できます）

ただ、アップデートしたことで使えなくなったり、不具合が生じるアプリがあったりするようですので、レセコンとして使われている先生は、レセコン業者へ確認したうえでのアップデートをお願いします。

アップデートされる場合は、念のためにアップデート前にデータを外付けハードディスクやSSDへ保存してから行うことをお勧めします。

新しいパソコンに買い替えればWindows11ですので、時期を観て買い替えるのもありだと思います。

選挙管理委員会



委員長

山本 カヨ子

先ず令和5年5月21日（日）の愛知県柔道整復師会定時総会にて、2年に1度の理事・監事選挙を会員の皆様のご理解とご協力により滞りなく行うことができました。厚く御礼申し上げます。

愛知県柔道整復師会の選挙方法を今一度説明させていただきます。選挙は一立候補者に対して信任・不信任を問う方法です。一枚の投票用紙に理事・監事立候補者全員の名前が載っていますので、信任者に○（信任票）をつけます。一人一人に対しての○ですから全員に○をつけても良いのです。

選挙規定により「理事及び監事は、投票権のある会員の過半数の出席により、有効投票数の過半数の得票を得た者より、上位順に理事は8～11名、監事は2名当選とする。但し出席者とは期日前投票者を含む」とあります。また、一枚の投票用紙ですが、理事は理事、監事は監事と別々の選挙ですので、お間違えないようにお願いします。

なお、今回の選挙公報配送時に数名の会員に期日前投票用紙が同封されず、大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ございませんでした。今後このようなことのないよう選挙管理委員の自覚を持ち職務を遂行致します。

選挙において役員を選出することは、柔道整復師として自分達の未来を託す大事なことです。今後とも役員選挙にご協力をお願い致します。

組織強化委員会



委員長

松田 吉弘

最優先に取り組まなければならない課題として2つあります。1つ目はオンライン資格確認、2つ目は会員数の減少を止めなければならないことです。

オンライン資格確認については、保険部とともに丁寧に進めさせていただきます。

会員数の減少については、このままでは本年には700名を下回ってしまいます。高齢に伴う廃業・退会は仕方のないことですが、新入会員が少ないのが問題です。

新入会員を増加させる施策として、開業相談や開業資金の調達方法も含めた開業支援を積極的に行っていくこと。また、廃業会員と新入会員との事業継承マッチング等も取り組まなければならない課題であります。

ここからの項目については賛否両論あると思いますが、保険の取り扱い方等の情報開示を積極的に行おうということです。今やインターネットを検索すれば、情報が得られる時代です。保険の取り扱い方も然り、インターネットで検索できます。実際に検索するとわかりますが、公益社団法人からの情報があまりにも少ないことに気づきます。様々な点で接点が少なければ、入会には結びつかないです。理事会で慎重な審議を重ねた上での情報発信になろうかと思っています。

入会日	支部・氏名	施療所名・住所・電話番号・郵便番号
令和5年 7月11日	 一宮 おおた やすはる 太田 康晴	中和医療専門学校附属接骨院 稲沢市東緑町一丁目1番81 TEL 0587-24-8813 〒492-8251
令和5年 8月1日	 豊橋 かいどう なおゆき 海道 尚志	海道接骨院 北設楽郡東栄町大字本郷字東万場41-2 TEL 0536-76-1256 〒449-0214
令和5年 9月13日	 鶴舞 わたなべ ひろみつ 渡邊 浩充	ひろ接骨院 名古屋市昭和区五軒家町8-6 リブローネ南山1F TEL 052-875-9757 〒466-0838
令和5年 10月2日	 半田 くぼ た ようこ 窪田 陽子	関接骨院 常滑市栄町5丁目60番地の2 TEL 0569-35-2579 〒479-0836
令和5年 11月27日	 中村 か く ゆう き 加来 佑樹	TAiSEiKAN接骨院 名古屋市西区則武新町3丁目1番17号 イオンモール Nagoya Noritake Garden 3階 TEL 052-526-1266 〒451-0051

訃報 慎んでご冥福をお祈りいたします



令和5年5月31日ご逝去
きたはら くに お
北原 邦雄 先生
笠寺支部・享年80



令和5年7月19日ご逝去
なか しげる
中 茂 先生
岡崎支部・享年68

第1回愛知県視覚障害者柔道交流会及び学習会に参加して



大曽根支部

中村 太

令和5年10月1日（日）米田柔整専門学校柔道場において「第1回愛知県視覚障害者柔道交流会及び学習会」（主催：愛知県柔道連盟 後援：NPO法人日本視覚障害者柔道連盟・米田柔整専門学校）が開催された。

「視覚障害者柔道に対する多くの方々の理解を一層深めると共に、柔道を通じて障害者スポーツが今以上に広がり、またそれに関わ

る全ての人々を取り巻く環境をより向上させ、誰もが住みやすい社会づくりに繋げていくこと」を目的とし、本会から平瀬 守久会員（大曽根）、月野 義明会員（半田）、黒氏 憲会員（中村）、石黒 貴彦会員（岡崎）、そして愛知県柔道連盟障害者柔道部会委員でもある竹上 勝会員（笠寺）をはじめ、小中高生ら学生、一般競技者や指導者等約120名が参加した。また、東京パラリンピックで活躍し、フランス開催パリパラリンピックを目指す、NPO法人日本視覚障害者柔道連盟強化選手の男子60kg級廣瀬 誠選手、男子73kg級瀬戸 勇次郎選手、男子90kg級佐々木 嘉幸選手、女子70kg級西村 淳未選手の4選手が講師として参加された。



午前の学習会では、佐々木 嘉幸選手と廣瀬 誠選手が講師として視覚障害者の日常生活について話をされた。佐々木選手からは、視覚障害者のことを少しでも健常者に理解していただくように、今回の学習会参加のため横浜の自宅から学習会会場までの道のりの不便さについて語られた。例えば、道路横断の際に信号が青なのか赤なのかが分からないこと、在来線から新幹線などの乗り換えの難しさ、ホテルチェックイン時の宿泊名簿への記入の困難、慣れないホテルの部屋への移動など健常者には気づかない不便さを話された。

「もし街中で、白い杖を持った視覚障害者が何か困っている場合、声を掛けるかどうか、

迷う時があると思いますが、迷わず声をかけ手助けしてあげてください。とても喜んでいただけたと思います」と説明された。



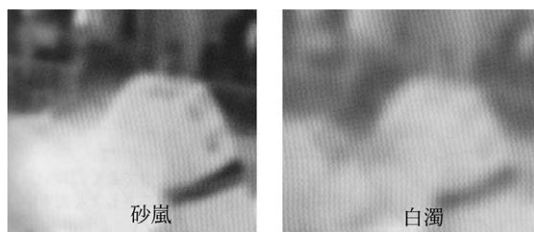
視野狭窄



中心が暗い

ひとくくりに視覚障害と言っても「盲（もう）」と「弱視」があり、障害の度合いは人により様々で、全く見えない「盲」の状態

も幾つかあり、明暗の区別もつかない状態、あるいは明暗の区別はつき、目の前で手を振ると動いているか止まっているかが分かる状態などがある。



また「弱視」の状態は、周りが暗く見える「視野狭窄」や逆に中心が暗く見える状態、中心がぼやけて全体的にテレビの「砂嵐」のように見える状態、全体的にぼやけ、白くかすんで見える「白濁」の状態など様々。そのため、障害の度合いにより試合のカテゴリーもクラス分けされ、視力0.0025以下の「盲」の状態は「J1」、視力0.0032～0.05まで、あるいは視野直径が60度以下の「弱視」の状態は「J2」となっている。



60kg級 廣瀬 誠選手

学習会の後、交流会として強化選手と健常者との合同練習が行われた。アテネパラリンピック、リオデジャネイロパラリンピックで共に銀メダルを取った60kg級廣瀬 誠選手は、本会田代 文吾会員（大曾根）道場主の田代道場出身で、私も一緒に練習したことがありますが、足払いの際、つばめ返しをしてくるなど、とても視覚障害者と思えない素晴らしい技を持っている柔道選手である。

強化選手4名と参加者全員で、準備体操から、打ち込み等を行い、私もアイマスクを装着し視覚障害の疑似体験をして柔道をしましたが、打ち込みをするにしても中心軸が取れ

ず、上手く入れません。特に受ける際は、いつ、どのような技が来るのか分からず、すぐに崩れてしまった。

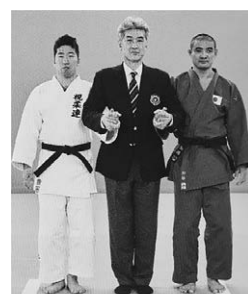
最後は、強化選手4名と参加者全員で乱取稽古を行い、健常者が投げられる場面が度々あり、障害者柔道選手の素晴らしさを再確認する一幕もあった。

昼食後、午後からはNPO法人日本視覚障害者柔道連盟 専務理事 佐藤 雅也先生が、視覚障害者柔道審判法について学習会を行った。

基本的なルールは、国際柔道連盟試合審判規定であり、健常者と同じであるが、視覚障害者柔道は「KUNDE JUDO」（組んで柔道）といい、組んでから始めるルールになっています。試合者が試合場へ入る時にも主審が手を取り、一緒に入場する。そしてお互いに礼のあと、主審の「組み方！」の発声でお互い組み合う。試合中、場外近くに試合者が移動した時は「場外！場外！場外！」と発声し、場外が近いことを試合者に教えなければならない。また、技が決まった時にはジェスチャーと共に「技あり！白！」、指導を与える場合は「指導！赤！」と、ポイントを取った選手、取られた選手に発声で教えなければならない。

視覚障害者の中には、聴覚障害がある選手もみえるため聴覚障害者には、発声ではなくボディータッチで試合の開始、待て、終了を伝え、スコアや罰則の「指導」を与える際にはハンドサインで、掌または、手の甲に主審が指でサインを描いて教える。

学習会の最後に視覚障害者柔道強化選手と



試合場への入場



組み方



試合の様子
(中日新聞掲載)

健常者との練習試合が行われ、私も審判をさせていただきましたが、発声をするタイミングや「待て」の後、選手の手を取り開始位置まで戻すことをついつい忘れてしまうなど、通常の試合より集中力が必要だと感じた。

視覚障害者柔道の現状と課題としては、全国の視覚障害者約320,000人に対し視覚障害者柔道選手約130人、全国の柔道指導者約17,000人に対し視覚障害者柔道指導者約50人という、選手及び指導者が少ないことです。視覚障害者柔道を発展させるには、選手の数を増やすことは勿論、指導者も増やすことが必須だ。

今回参加者の中に、視覚障害者の75歳の方

もおられ、お話を聞いてみると12年前から柔道を初め、柔道に魅せられ現在でも続けているとのことであった。これも柔道の素晴らしさの一面であり、このように柔道を始める方が増えることを願う。

2026年には、名古屋でアジアパラ競技大会が行われますが、私も柔道整復師として、いろいろな形で大会や選手のお手伝いができればと思う。

最後に、ヘレン・ケラーの名言「障害は不便ですが、不幸ではありません」という言葉を思い、視覚障害者と健常者が柔道を通じ、共に汗をかく機会が全国に広がることを願い学習会、交流会の報告とする。



令和5年6月25日（日）公益社団法人日本柔道整復師会館において通常総会が開催された。本会より森川会長・藤川副会長・石川副会長・河合経理部長ら代議員が出席した。

冒頭に伊藤 述史日整会長より挨拶があり、今後始まるであろうオンライン請求などの諸問題は、日整が中心となり厚労省と協議し、国民の利便性の為にある受領委任払い制度を死守するなどの話があった。

95名の代議員全員出席者をもって総会成立宣言された。



（総会傍聴者20名の許可あり）

議長 遠藤福島県柔整師会会長

副議長 加藤広島県柔整師会会長により円滑に議事進行された。

議題（3）『役員の選任並びに会長及び副会長の選定について』では、会長選挙（定数1）にて伊藤 述史〈東京都会員〉が立候補辞

退され、伊藤 宣人〈三重県会長〉と長尾 淳彦〈京都府会長〉の一騎打ちとなり、長尾淳彦会員が当選された。

（以下、敬称略）

総得票数95票（無効票2票）

※長尾 淳彦 65票

伊藤 宣人 28票

また副会長選挙（定数2）では森川 伸治会長と竹藤 敏夫〈茨城県会長〉が当選された。

（以下、敬称略）

総得票数95票

※竹藤 敏夫 68票

森川 伸治 56票

豊嶋 良一 28票

春原 博 8票

そして理事選挙は定数内の16名の立候補の為、選挙管理委員会の申し合わせによる代議員挙手による一括審議とされ、藤川副会長を含む全員が当選された。

本会より

『（公社）日本柔道整復師会 森川 伸治 副会長』

『『公社』日本柔道整復師会 藤川 和秀 理事』が選定された。

（副会長 石川 益郎）

第32回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会 第12回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会

令和5年7月2日（日）「少年少女の健全なる心身の育成に努めると共に、参加者相互の親睦並びに、柔道整復師に対する理解を深め、柔道の発展に寄与することを目的とする」という趣旨の下、愛知県武道館において、第32回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会及び第12回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会（後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・（一社）愛知県柔道連盟・中日新聞社）が開催された。

新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ変更され、会場の人数制限も緩和されたこと、公益活動の一環である本会大会のため一人でも多くの選手に参加していただきたく、今年度は、例年のような人数制限はせず、各団体4年生から6年生までの男女何人でも参加できる大会とし、総勢319名の柔道少年少女が選手として参加した。観客席には、保護者や所属団体関係者で多くの方が声援を送り、試合と形に熱戦が繰り広げられる賑やかな大会となった。（全日本柔道連盟新型コロナウイルス感染症対策指針に従い開催）

今回、初めての試みとして、試合審判員は、ケアシステム及びインカムを使用しての1審制で行われた。

6月21日（水）に行われた本会主催の「審判講習会」において、本大会の審判員は、審判規定の他、ケアシステム及びインカムについても説明を受けた。

全国的に見ても少年大会の1審制は珍しく本会の大会が、他の少年大会の参考になるよう一人一人の審判員が公平で正確な試合審判を努めた。

開会式が始まり、森川 伸治大会会長の挨拶の後、石田 雅明審判長より試合上の注意が述べられた。

選手宣誓は、昨年度5年生女子優勝者であり選抜選考試合でも男子に勝ち、日整全国大会次鋒に出場した吉田 唯良さん（山北道場）が行った。

その後、協賛企業の東洋マーシャルアーツディストリビューション様より、柔道バッグ3個の抽選会が行われ、当選番号が読み上げ

られるたびに会場に笑顔が見られた。



第12回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会は、今年度から県大会での優勝者が全国大会への切符を手に入れる大会となり、10支部中7支部（3支部棄権）により静寂の中、熱い戦いが行われた。

形競技の審査員は、全日本柔道連盟公認形審査員を有する本会会員5名（審査委員長 森正仁6段、審査員 石田 雅明7段、夫馬 喜久治7段、榎本 好根7段、相羽 秀昭6段）により構成された。

森 正仁審査委員長より競技上の注意のあと、形演武が開始された。

年々、少年形競技会選手の競技レベルが高くなり、どの組も素晴らしい形演武を披露した。

形競技会試合結果は、下記の通り

優勝 大曽根支部

（取：吉田 唯良、受：大掛 凌）

準優勝 岡崎支部

（取：竹本 華乃、受：白井 啓太）

第3位 一宮支部

（取：堀園 秀、受：岩井 晴香）

第4位 半田支部

（取：花田 義治、受：工藤 洋平）

第5位 鶴舞支部

（取：大島 廉太郎、受：五十川 敦己）

第6位 刈谷支部

（取：鈴木 勇晴、受：宮下 魁渾）

第7位 中村支部

（取：鈴木 勘太郎、受：神野 芭瑠）

優勝した大曽根支部（取：吉田 唯良、受：大掛 凌）は、9月3日（日）静岡県武道館で開催される第13回東海少年柔道形競技会

及び11月19日（日）講道館で開催される第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道形競技会への出場が決定した。

第32回公益社団法人愛知県柔道整復師会少



試合結果は下記の通り

4年生男子の部

- 優 勝 若松 晴太（柴田道場）
- 準優勝 熊谷 桂治（六郷道場）
- 第三位 中村 廉（半田少年柔道教室）
- 第三位 木村 英心（東海少年柔道教室）

4年生女子の部

- 優 勝 長谷川 琴葉乃（瀬戸陶原道場）
- 準優勝 岩澤 芽以（山北道場）
- 第三位 榎本 明佳里（東海少年柔道教室）
- 第三位 柴田 彩心（柴田道場）



5年生男子の部

- 優 勝 竹内 秀人（NPO法人大森クラブ）
- 準優勝 岩澤 斗成（山北道場）
- 第三位 木村 剛琉（六郷道場）
- 第三位 太田 龍誠（大石道場）

5年生女子の部

- 優 勝 安江 美乃（羽田野道場）
- 準優勝 鄒 雨辰（岡崎市柔道会）
- 第三位 柳田 深結（東海少年柔道教室）
- 第三位 木村 恵子（一久柔道クラブ）



年少女柔道大会は、トーナメント方式、試合時間2分、僅差判定の試合審判方法（決勝戦は2分間のゴールデンスコア採用）により行われた。各試合場とも熱戦が展開され、会場からも大きな声援が送られた。

6年生男子の部

- 優 勝 吉田 空雅（大石道場）
- 準優勝 井手 煌（大石道場）
- 第三位 忠内 咲太郎（東海少年柔道教室）
- 第三位 榎本 雄琉（東海少年柔道教室）

6年生女子の部

- 優 勝 吉田 唯良（山北道場）
- 準優勝 嶋田 彩乃（羽田野道場）
- 第三位 林 つほみ（六郷道場）
- 第三位 水田 絵麻（トヨタ自動車柔道同好会）



トーナメント試合終了後、第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会出場をかけ、選手選考試合が行われた。先鋒、次鋒の選考会では、女子選手が男子選手に勝利を納め選抜代表に選出された。

結果は下記の通り

第20回柔整師杯東海少年柔道大会

第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会出場選手

- 愛知県代表選手（5人制、団体）
- 先鋒 4年生（女子）長谷川 琴葉乃
（瀬戸陶原道場）
- 次鋒 5年生（女子）安江 美乃
（羽田野道場）
- 中堅 5年生（男子）竹内 秀人
（NPO法人大森柔道クラブ）
- 副将 6年生（男子）井手 煌
（大石道場）

大将 6年生 (男子) 吉田 空雅
(大石道場)

第20回柔整師杯東海少年柔道大会 出場選手
愛知県代表選手 (女子3人制、団体)

先鋒 4年生 岩澤 芽以 (山北道場)
中堅 5年生 鄒 雨辰 (岡崎市柔道会)
大将 6年生 吉田 唯良 (山北道場)

(柔道部長 中村 太)

第58回愛知県柔道整復学会 第98回会員研修会

7月30日 (日) 午前10時より、第58回愛知県柔道整復学会、第98回会員研修会が本会講堂にて開催された。当日参加者数は90名で、今回はZoom配信のない会場参加型のみとし、後日YouTubeにて閲覧可能とする新しい試みであった。

学会に先立ち、日整最高の栄誉賞として贈られる「帰一賞」のうち帰一精錬賞を受賞された鶴舞支部の石田 雅明会員と、大曽根支部の中村 太会員の表彰が執り行われ、森川伸治会長による代読と盾が授与された。

石川 益郎副会長の開会宣言に続き、森川学会長の挨拶では、連日の猛暑に触れ、熱中症対策を十分取って日々の施術に当たるよう激励を頂いた。また、長年に渡り愛整会学術部長としてご尽力いただきながらも、今般の役員改選を機にご勇退された筧 芳幸会員をご紹介し、労いのお言葉をかけられた。



なお、今学会3演題と会員研修会1題の全てにおいてCOI開示があり、開示すべきCOI関係にある企業等はないことが示された。

第58回愛知県柔道整復学会

演題1：肘部尺骨神経障害について
～野球肘との関連を考える～
井上 久士 会員 (大曽根支部)



井上会員自身に生じた右前腕部から環小指へのしびれ感と、長い野球歴との関連に疑問を持ち、先行研究を基に臨床所見を照らし合わせて文献的考察を報告した。結果、長い競技歴によるオーバーユースが上腕三頭筋内側頭の緊張を引き起こすことでStruthers' arcadeでの尺骨神経圧迫を起こしているか、肘の屈伸を繰り返す投球動作や肘枕位での肘部管内圧上昇が尺骨神経に機械的刺激を与え症状を惹起しているのではないかと考察した。

演題2：Velocity based training (VBD) がシニア層の加重スクワットに及ぼす効果

天野 敦之 会員 (鶴舞支部)



以前より接骨院にてバーベルスクワットを指導していた高齢者4名 (男性1名・女性3名、平均年齢74.5歳) に対し、3軸加速度計とジャイロセンサー内臓の慣性計測装置 (Vmax

ーpro) を装着した40kgのバーベルを用いたスクワット運動を、目の前に設置したタブレット端末で平均挙上速度と挙上距離の数値をリアルタイムに確認しながら行った。その結果、1名の1項目を除き、他は全ての平均挙上速度と挙上距離が向上した。

考察として、1挙上毎に挙上速度がフィードバックされ、常に挙上速度を最大にしようとする心理が働くことで平均挙上速度が向上し、挙上距離も表示することにより深くしゃがみ込む意識が芽生えたと述べた。また、今回実施した方法では、徐々に負荷（重量や回数）を増やしていくという方法ではなく、同重量のまま挙上速度を最大にするよう努力するという方法から、運動強度を増すという心理的抵抗や傷害発生等のリスクは少なく、シニア層にとっても安全に筋力増強効果が期待できるトレーニング方法であるとした。

演題3：松葉杖補助具の作製とその効果の検討

國領 雄一 会員（刈谷支部）



両松葉杖による免荷歩行をさせた患者の中に、健側足関節痛が生じた例を半年間で3例経験した。調査の結果、全例で健側荷重足が身体の前方で着地する際、杖の先端同士を結んだラインを跨いで着地であった。そこで、左右の杖を連結させることで健側足がラインを超えることを防ぐ補助具を独自に考案・作製し、健康体の男性5名（平均年齢10.4歳±0.8歳）の協力を得、実際に10m歩いていただく実験を報告した。

4席の発表後、賞状・記念品授与と、記念撮影が行われ、藤川 和秀副会長の閉会の辞にて学会は終了した。



第98回会員研修会

演題：橈骨遠位端骨折から考える ～限局性圧痛は診断、治療過程の指標となるか～

中村 宜之 会員

（本会学術委員、大曽根支部）

前回の第97回研修会では日整『匠の技 伝承』プロジェクトに参加された永田会員より橈骨遠位端骨折の整復と固定の実技をご講演いただいたことを踏まえて、今回は実際の骨折のX線画像や先行研究を交えた発表であった。



初検時においては、骨折の固有症状（異常可動性、軋轢音、転位と変形など）がなかった場合などは限局性圧痛部位を探して骨傷判断の材料とし、それらの症状が徐々に消失していくことで経験的に治療過程を評価しているが、この経験則は果たして正しいのかどうかを裏付ける先行研究をいくつか紹介。

①ラットの骨損傷モデルを用いて研究したという安井らの論文では骨の再生期間、圧痛閾値低下期間、NGF（神経成長因子）発現期間は一致する傾向にあるとし、骨癒合すると圧痛はなくなり、骨芽再生中はNGFが発現していくので、限局性圧痛はNGFが関与しているのではないかと結論付けている。

- ②自身らが実際の骨折患者6名を対象に、整形外科医3名と臨床経験が15年以上の柔道整復師3名が骨癒合時期を評価した研究では、骨癒合が確認された1週間後に限局性圧痛が消失したと報告。
- ③橈骨遠位端骨折のみ8名を調査した町田らの調査では、5週間目で有意に圧痛閾値の上昇を認めたと紹介した。
- ④井上らの報告では長管骨を例に、骨幹部は厚い皮質骨と少量の海綿骨で構成され、骨幹部端部は薄い皮質骨と豊富な海綿骨で構成と組織が異なり、治癒過程も骨幹部に関しては骨膜側に軟骨性仮骨が形成され、骨折部遠位から膜性骨化が起こり、血管侵入に伴い骨に置換される（内軟骨性骨化→X線では架橋仮骨形成像を呈す）が、骨幹部端部では骨膜側には仮骨は形成されず、髓腔側から仮骨形成によって修復され、骨幹部よりも早期に炎症が収まり骨塩量回復も早い（膜性骨化→X線では骨硬化像を呈す）と、構造や治癒過程そのものも違うと述べている。

また、骨癒合の明確な定義がないことや、骨折部位による治癒過程の違い等により、整形外科医の中でも骨癒合時期の判断が分かれていることに触れ、我々柔道整復師はX線画像を見て評価する職種ではないものの、いかにして初検時の骨傷の有無や、骨折の治癒過程を判断していくのかということを分かりやすく説明していただいた。

研修会の後半では、橈骨遠位端部における骨折の判断基準に関して会場の会員とのディスカッションが行われ、中村会員は「橈骨遠位端部は軟部組織が少なく、直に骨に触れられる部位なので、限局性圧痛は明確に把握しやすいという点で重視している」と述べ、中村支部の山北会員は、「橈骨遠位端部に関しては、比較的圧痛がわかりやすいので一番の指標としている。小児の変形のない骨折や、成人でも変形のない骨挫傷の様なわかりにくいものに対しては、背側のみならず掌側など全周にわたって圧痛を確かめ、圧痛がある場合はより骨折の可能性が高いと判断する。また、受傷から経過した時間と腫脹の程度や可動域制限も判断材料としている」と述べた。

大曽根支部の館会員からは「骨の機能を治すということが治癒と考ええると、圧痛が取れていない時期は骨の機能が不十分と考えシーネ固定期に該当すると考える。また、固定を除去したり軽くしたりするタイミングに骨癒合の進行状況を知りたいので圧痛や経過時期を材料としているが、いずれにしても手探り状態で進めている」と述べた。熱田支部の林会員からは、「骨皮質が破断しない骨折はなく、骨折線は必ず存在する。我々が扱う不全骨折をヒビと表現しているが単に転位がないだけの話。病的骨折でない限り骨膜が損傷せずに骨皮質だけ破断するということはあり得ない。また、骨膜には痛覚枝が存在するが、皮質から髓質には交感神経は入っているものの痛覚枝は入っていない。骨髓からの出血は皮下出血よりも内圧が高いので腫れも強いし自発痛も強い。骨折部位によって腫れ方にも特徴があるので覚えておくといよい」とコメントをいただいた。最後に森川会長からは、「病院勤務時代は検査機器を活用していたが、接骨院開業後は限局性圧痛を重要視している。また、関節内骨折と関節外とでは予後に差が出ると考えているので慎重に判断している。転位のない軽度の単純骨折と、そうではない自分の限界を超えたものとの判断をしなければいけないし、きちっと固定ができなければいけない。また、超音波画像観察だけに頼るのではなく、視診・問診・触診をしっかりと行っただうえで、超音波で確認をするということが大事である」と述べた。

（広報部）



7月30日（日）午後2時から愛整会館3階講堂にて、三重県山本 慶介総務部長の司会進行にて、第29回東海四県役員合同会議が開催された。

岐阜県の杉江 拓郎会長の開会の辞に続き、東海ブロック会伊藤 宣人会長挨拶の後、令和4年度に東海ブロックで亡くなられた会員（愛知3名、岐阜3名、三重2名、静岡3名）に哀悼の意を表し黙祷が行われ、続いて各県役員の紹介が、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県順でおこなわれた。

その後、新たに日整役員に当選された、森川 伸治副会長、鈴木 努事業部長、藤川 和秀理事が挨拶をして協議会に移った。

○協議会

第1部 組織率向上に向けて

各県が行っている、組織率向上への取組みを紹介して、情報交換、意見交換が行われた。

第2部 保険一般

各県質疑応答形式で行われた。

- ・不支給決定に対する審査請求の対応について
- ・マイナカードのカードリーダーについて
- ・患者への受診抑制（患者照会等）への日整の対応について
- ・医科との併給について
- ・コロナ禍での請求及び総件数の推移について
- ・医接連携について
- ・返戻についての会としての各県の対応について
- ・東海四県における自賠責（共済）の3年間の推移報告

その後、連絡事項が伝えられ、

- ・柔整師杯東海少年柔道大会・形競技会について（9月3日）
- ・第56回東海学術大会三重大会について（10月28日・29日）

静岡県鈴木 努会長の閉会の辞で閉会となった。

（広報部）

第20回柔整師杯東海少年柔道大会 第13回東海少年柔道形競技会



令和5年9月3日（日）「我が国の将来を担う小学生児童の心身ともに健全な育成を目的」とすると共に、児童相互の交流と親睦及び東海地域の柔道の普及発展を目的とする」という趣旨の下、静岡県武道館（静岡県藤枝市）において第20回柔整師杯東海少年柔道大会及び第13回東海少年柔道形競技会が、日本柔道整復師会 東海ブロック会主催によって開催された。

開会式の後、形競技会から開催され、愛知県代表として、7月2日（日）に開催された本会大会にて優勝した大曾根支部 取：吉田 唯良（山北道場）、受：大掛 凌（山北道場）、監督 榎本 好根7段が参加した。

摺り足と受け身の音のみ響く静寂の中、各県代表の素晴らしい演武が披露されたが、落ち着いた演武を行った愛知県組が77.5点の高得点にて優勝した。



形競技会試合結果は、下記の通り

優 勝 愛知県

準優勝 静岡県

第3位 三重県

形競技会終了後、第20回柔整師杯東海少年柔道大会が開催され、2試合場に分かれて選抜団体戦と女子3人戦が交互に4県によるリーグ戦にて開始され、本会から審判員として石田 雅明7段、相羽 秀昭6段（ともにAライセンス審判員）が参加した。

選抜団体戦は、先鋒4年生（女子）長谷川 琴葉乃（瀬戸陶原道場）・次鋒5年生（女子）安江 美乃（羽田野道場）・中堅5年生（男子）竹内 秀人（NPO法人大森柔道クラブ）・副将6年生（男子）井手 煌（大石道場）・大将6年生（男子）吉田 空雅（大石道場）・監督 中村 太7段が参加した。

先鋒と次鋒は、男子選手との選考試合を勝ち上がり選抜入りを勝ち取った女子選手で、今大会でも心強い安定した柔道で勝利に貢献した。

1回戦三重県戦は、3-1で勝ち、2回戦静岡県戦は、2-2の内容勝ち、3回戦岐阜県戦は、2-2の内容勝ちにて3戦3勝にて見事優勝を果たした。

優秀選手は、3戦3勝した6年生（男子）井手 煌 選手（大石道場）が選ばれた。

選抜団体戦試合結果は、次の通り

優 勝 愛知県

準優勝 静岡県

第3位 岐阜県



続いて女子3人制団体戦は、先鋒4年生 岩澤 芽以（山北道場）、中堅5年生 鄒 雨辰（岡崎市柔道会）、大将6年生 吉田 唯良（山北道場）、監督 夫馬 喜久治7段が参加した。大将の吉田 唯良 選手は、形競技と試合の2足の草鞋で大活躍した。

1回戦三重県戦は、1-1の内容負け、2回戦静岡県戦は、1-1の引き分け、3回戦岐阜県戦は、0-2で負けとなり、1引き分け2敗となったが、高率高点内容法適応にて3位入賞を果たした。

優秀選手は、三重県戦と静岡県戦にて2勝した5年生 鄒 雨辰 選手（岡崎市柔道会）が選ばれた。

女子3人制団体戦試合結果は、次の通り

優 勝 岐阜県

準優勝 三重県

第3位 愛知県



愛知県チームの結果は、形競技会優勝、選抜団体戦優勝、女子3人制団体戦3位入賞となり、11月19日（日）講道館開催の第32回文部科学大臣杯日整全国少年柔道大会及び第13回文部科学大臣杯日整全国少年柔道形競技会に向け、良い弾みのついた大会となった。

（柔道部長 中村 太）

防災訓練

「災害活動」「地域貢献」と「エコラ予防運動」

9月3日（日）なごや市民総ぐるみ防災訓練「中川区総合防災訓練」が名古屋市立一色中学校（中川区）で開催され、本会より事業部員鈴木 清孝会員、小林 茂熱田支部長、國保晋会員、森 剛会員、水谷 浩の計5人で参加いたしました。



避難訓練は、住民が中学校体育館を参加者100名程、6グループに分かれ、本会・NTT・東邦ガスの3団体の〈住民参加型訓練〉でおこないました。

（熱田支部 水谷 浩）

防災訓練に参加して

9月3日（日）中村区総合防災訓練に参加してきました。

早朝より暑い日でしたが、中村区亀島ふれあい公園で準備を開始し、警察、消防、自衛隊など関係機関（中部電力・NTT）はじめ民間の畳屋さんの組合などが参加されておりました。

当会のブースでは、中村支部事業担当水谷会員と二人で参加させていただき、日用品を使った応急処置、骨折や捻挫の固定法や止血

法の講習を行いました。



スーパーの買い物袋を使った三角巾固定は、皆さん興味深く聞いていただきました。

住民の方に接骨院の業務内容もお伝えさせていただき認知度を上げられたかと思います。

(中村支部長 池村 三行)

安城市総合防災訓練 参加レポート

9月3日（日）安城市総合運動公園にて、消防・警察・自衛隊・医療を組み合わせた大規模な安城市総合防災訓練がコロナ禍以降4年ぶりに開催され、石川 益郎副会長・竹内 健二刈谷支部長・石川 英一郎岡崎支部長・星野 彰二会員・安原 成浩会員・石川 蓮会員・樋渡の7名で活動してまいりました。

当日は気温も高く酷暑の中でしたが、1,000名以上の関係者が参加し盛会となりました。



「医療救護所設営訓練」では、医師によるトリアージが行われ柔道整復師が外傷の対応をする訓練をしました。「エコノミークラス症候群の予防体操」では避難所生活の中で長時間同姿勢が続くと血栓ができやすく、予防のための簡単にできる体操を紹介させていただきました。

安城市は三河地震以降、大きな地震は起き

ておりませんが、30年以内に60～70%の確率で起こると予測されている南海トラフ地震に対ししっかり準備することが必要だと改めて感じました。

(事業部員 樋渡 啓祐)

愛知県・安城市総合防災訓練にて「医療救護所設営・運営等実働訓練」を石川 益郎事業部担当副会長・石川 英一郎岡崎支部長・石川 蓮会員にて担当した。安城北中学校を



医療救護所とし、模擬患者40名が一次トリアージに次々に投入される。医師が一次トリアージを行い、我々の担当ブースである「緑エリア」に運ばれ、二次トリアージを行った後、医師の指示のもと柔整業務範囲の外傷被災者を我々が対応した。医療物資の乏しい被災地にて、我々柔道整復師がどのように活躍できるかを模索し訓練は終了した。

(事業部長 石川 益郎)

岡崎支部防災訓練

9月3日（日）に、岡崎小学校にて防災訓練がありました。岡崎支部では、黒瀬会員、井上会員、中村会員、青山会員、赤根会員、私の6名の会員で参加させていただきました。

上肢と下肢に分かれて、応急処置の固定法を披露しました。上肢はスーパーの買い物袋を裂いて、三角巾の代わりにし、その上からキッチンラップで体幹に固定しました。下肢はダンボールとキッチンラップを用いて膝関節の固定や、足関節の固定をしました。参加されていた市民の方々は皆さん真剣に我々の話を聞いていただけたのでやりがいがありました。

(岡崎支部 秋吉 良)

日整第56回東海学術大会 三重大会

令和5年10月28日（土）10月29日（日）の両日、三重県津市のアスト津アストホールにて日整第56回東海学術大会三重大会が開催された。会場のアスト津は津駅と隣接しており交通アクセスが良かった。

1日目、18時から開会式が行われ、三重県の服部 和人副会長の開会の辞に続き、日整会長挨拶では長尾 淳彦会長欠席の為、森川 伸治副会長が挨拶を行った。



続いて、「学術教育部からのお願い」

①匠の技伝承プロジェクトの意義等について
②エコーを柔整師の手に
と題し、徳山 健司日整学術教育部長と篠 弘樹日整学術教育部員が講演を行い1日目を終了した。

2日目は、9時30分からA会場で会員研究発表



表が行われ、本会からは中島 正勝会員（豊橋支部）が「仙腸関節捻挫に足指の運動療法が有効であった一症例」を発表した。

同時刻、B会場ではワークショップが「橈骨遠位端骨折」を演題に行われ、富永 敬二日整学術教育部員が整復固定の実演を、篠 弘樹日整学術教育部員

がエコーの実演を行い、参加者は班ごとに整復固定とエコーを実際に使った体験実習を行った。



10時40分から三重県の堀 智秋会員が「膝蓋上囊の解剖と触診」と題して講演を行った。公演後短い時間ではあったが、膝の触診方法を説明し実際に体験を行った。

午後から一般公開講座（特別講演）「頭部外傷と脊椎外傷」が三重県立総合医療センター、脳神経外科部長 亀井 勇介先生の講演が行われ、頭を打って気持ちが悪くなったとき（脳震盪など）は、競技や練習を中止して安静にし、病院の検査で大きな異常が無くても再度頭を打った（セカンドインパクト）際に脳の血管が損傷を起こし選手生命が絶たれたり死亡することがあるため、しばらくの間安静にすることを強調した。

14時35分から会員研究発表者の表彰が行われ、14時50分から閉会式があり、次年度主催県の静岡県鈴木 努会長より、次回は浜松で行われることを告げて幕を閉じた。

（学術部長 西村 武蔵）

第29回学術・生涯学習講習会



災害対策委員長
石川 益郎

令和5年11月18日（土）、日本柔道整復師会館にて「第29回学術・生涯学習講習会」が

開催された。

日本柔道整復師会では、大規模自然災害現場で柔道整復師に何ができるかを見据え、会長直轄の災害対策室を立ち上げた。その目的は日整災害時救護チーム（通称：DJAT）の再編を中心とした、災害に強い組織づくりを基本に、実際の災害現場で多職種と密に連携できるために必要な体制を整える事である。

特別講演では「被災地における柔道整復師の必要性」と題して、日整災害対策室員 塩

見 猛会員が講演。また、「国内自然災害に対して柔道整復師が果たしてきた役割・活動から考える未来」と題して、同室員 森 倫範会員が講演された。両会員はトルコ共和国で発生した大規模地震後、国際緊急救助隊

(JDR) 医療チームの一員として現地入りし、外傷処置等を担当された。「柔道整復師は医療資源の少ない災害現場でも、その力を十分に発揮できる数少ない職種」であるということを再確認した。

第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会 第13回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道形競技会

令和5年11月19日（日）公益社団法人日本柔道整復師会主催（後援：スポーツ庁、厚生労働省、東京都、公益財団法人講道館、公益財団法人全日本柔道連盟、公益財団法人東京都柔道連盟、産経新聞）にて、「柔道を通じて、少年少女の健全なる心身の育成に努めると共に、参加者相互の新睦並びに、柔道整復師に対する理解を深め、柔道の発展に寄与することを目的とする」という趣旨の下、柔道の総本山「講道館」において第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会及び第13回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道形競技会が開催された。

全国少年柔道大会は、学年別5人団体戦にて各都道府県の代表48チーム（東京都は2チーム出場）によるトーナメント方式により行われた。

愛知県代表チームは、先鋒4年生（女子）長谷川 琴葉乃（瀬戸陶原道場）・次鋒5年生（女子）安江 美乃（羽田野道場）・中堅5年生（男子）竹内 秀人（NPO法人大森柔道クラブ）・副将6年生（男子）井手 煌（大石道場）・大将6年生（男子）吉田 空雅（大石道場）・監督 中村 太7段、コーチ 夫馬 喜久治7段が参加した。

大将の吉田選手は、4年生時、5年生時にも



この大会に出場し今回3年連続の出場。

普段、所属の違う選手たちにも関わらず仲良くチームワークの取れた良い団体チームで、試合前には、円陣を組み気合を入れて挑んだ。

初戦は、第4試合会場にて4試合目に青森県と対戦した。

先鋒長谷川選手が、開始早々見事な大外刈を掛け一本勝ちで流れを作ったが、次鋒、中堅が惜しくも負け、副将、大将が善戦するも引き分けとなり、1-2にて1回戦敗退の結果となった。試合後、控室で涙する選手もいたが、この大会を機により一層飛躍することを望みたい。選手の皆さん、お疲れ様でした。

少年柔道大会結果は次の通り

優 勝	宮崎県
準優勝	広島県
第3位	千葉県
第3位	奈良県

少年大会終了後の午後1時30分から、全国少年柔道形競技会が開催された。

『嘉納治五郎師範は、柔道稽古法を「形」と「乱取」の二種に分類し、「形」は攻撃防御に関しあらかじめ種々の場合を定め、理論に基づき身体の動きを規定し、その規定のごとく稽古すると教え、「乱取」とは、一定の方法に拠らず、各自、勝手の手段を用いて稽



古することであると教えられた。

「投の形」は講道館柔道草創期の時代を背景として制定された古典である。少年少女柔道は試合優先主義、勝負一辺倒から技の理合いの原点を正しく理解、体の育成に努めると共に、参加者相互の親睦並びに、柔道整復師に対する理解を深め、柔道の発展に寄与することを目的とする』という趣旨の下、「投の形」（内股まで）の演武を競う形競技会が始まった。

競技方法は、まず各都道府県の代表48チームを4ブロックに分けて予選を行い上位2組が決勝戦に進出でき、決勝戦は計8組で行われ順位が決定する。

競技方法は、まず各都道府県の代表48チームを4ブロックに分けて予選を行い上位2組が決勝戦に進出でき、決勝戦は計8組で行われ順位が決定する。

本会から 取：吉田 唯良（山北道場）、受：大掛 凌（山北道場）、監督 榎本 好根7段が愛知県代表として参加した。

山北道場の選手の2人は、愛知県小学生学年別柔道大会6年生男女それぞれの軽量級優勝者であり試合でも良い結果を残している選手たちで、取の吉田選手は、令和4年度全国少年柔道大会の次鋒で出場しており、今回全国大会に試合と形で2年連続出場した。また、受の大掛選手は、今年2月から本格的に形の練習に挑み、週3回の練習日に合計8回以上通し稽古を行い、投げられて受け身をした回数は6000回を超えた。

形競技会予選は、Cブロック6番目の演技



順にて行われ大阪府につぐ第2位にて予選を突破し、決勝への出場が決定した。

決勝戦では、監督によるくじ引きで演技順が1番となったが、70点を超える高得点を出した。

結果は、全体の8位となったが、県大会、東海大会を含め今大会の演武は最高の仕上がりで、拍手禁止にも関わらず、演技終了後会場から沢山の拍手が沸き起こった。

少年柔道形競技会結果は次の通り

優勝 兵庫県
準優勝 東京都
第3位 大阪府

熱戦が繰り広げられた「第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会」「第13回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道形競技会」は、森川日整副会長の閉会の辞をもって終了した。



（柔道部長 中村 太）